プロセスとシステムから見た景観整備事業の特徴の把握に関する研究*

Study of the Characteristic of Landscape Design Projects from a View of the Process and the System*

石井信行**・引田次郎***・吉森新平****

By Nobuyuki ISHII**・Jiro HIKIDA***・Shinpei YOSHIMORI****

１．はじめに

戦後、社会的基盤の大半を失い焼け野原の状態から高度経済成長を経て今日の社会を築いてきたそして社会的基盤の整備が進むにつれて住民の望むことも自分の生活を守るための安全からより質の高い暮らしへと変化してきている。そこで、そのような住民のニーズに応えるために、行政が様々な試みを行っている。具体的には行政と市民が、政策形成の段階で人々の意見を吸い上げようとするために人々に意思表明の場を提供する試みであるＰＩ（パブリックインボルブメント）、地域に関る多様な立場の人々が参加し、各種の共同作業を通じて信頼関係を構築しながら創造的に意見を集約していくワークショップ等、話し合いの場を設けて協力しながら行っている。しかし、市民の知識不足や価値観の違い、行政の経験不足による対応の遅れなどいくつもの問題を抱えており、現在はまだ試行錯誤の段階である。

一方、企業のマーケティングは常に時代の流れに応じて変化する消費者のニーズを的確に読み取り、それに応じた商品やサービスを提供することによって顧客の満足を得てきた。

そこで、行政が住民に対してサービスを提供するという視点に立って考えると、顧客の満足を追及し、かつ豊富な経験技術のある企業のマーケティング手法が景観整備にも応用でき、マーケティング論に基づく、行政と住民とのコミュニケーション手法が新たに確立できるのではないかと考えた。

すでに、本研究に関係するものとして筆者らはマーケティングの手法により景観整備事業を評価[1)]し、両者の相違点を明らかにしているが、記録として残されていない部分の景観整備事例の情報が分析の中に取り入れられていない為、原因の解明には至っていない。

*キーワーズ：景観、プロセス、システム

**正員、工博、山梨大学大学院医学工学総合研究部
（山梨県甲府市武田4-3-11、TEL/ FAX 055-220-8597）
***学士、千葉大学大学院自然科学研究科環境計画学専攻
（千葉県松戸市松戸648、TEL/FAX 047-308-8881）
****学士、山梨大学大学院土木環境工学専攻
（山梨県甲府市武田4-3-11、TEL/ FAX 055-220-8597）

２．目的・対象

マーケティング論の視点で、景観整備事業のプロセスとシステムの特徴を把握することを目的とする。調査の対象は、主に1990年代に竣工した景観整備事業で、住民が何らかの形で事業に関わっていた事業である。

３．方法

方法としては、文献調査により景観整備事業に関わる法律、事業の一般的な組織、プロセスを調査する。景観整備事例については、文献の他に現地調査、関係者へのインタビューを行う。これらに基づき、景観整備事例のプロセス、システムを抽出、図式表現し、特徴を分析する。

４．景観整備プロセス、システム

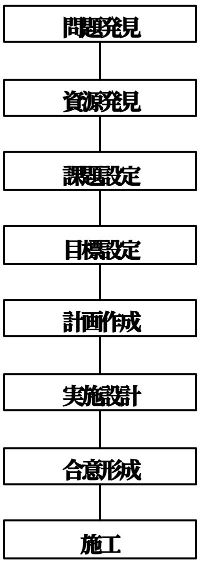
事例のプロセス、システムの特徴を明らかにする方法として、既存研究及び文献調査を基にプロセス、システムを図式化する。

（１）　プロセス

一般的な景観整備は、道路整備の際のマニュアル[2)]によると、景観検討の手順を①調査、②課題の設定、③整備案の作成と示している。これらの手順より、①調査を「問題発見」、「資源発見」②課題の設定を「課題設定」、「目標設定」③整備案の作成を「計画作成」、「実施設計」とし、その後に「施工」となる。ここで、参考文献[2)]には書かれていないが、施工する前には、住民の合意形成が必要であると考えるので「合意形成」の項目を入れる。この一般的な手順をプロセスモデルとし、図－１に示す。また、プロセスの各過程を判定する内容を表－１に示す。

（２）　システム

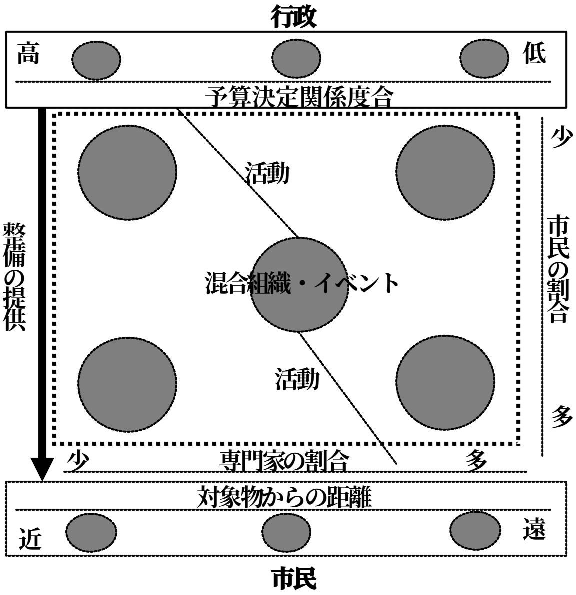
既存の研究及び文献により、景観整備に関係する組織を調査し、提供者が受容者に対してマーケティング活動を行う際に、どのような機関との協力の下で受容者に対して活動が成されているのかをまとめた、マーケティン



図－１　プロセスモデル

表－１　プロセスの各過程の内容

目的	対象	定義
問題発見	自然環境	地域に昔からある、山、川、植物、湖など。
	人工環境	この問題点を抽出する活動として住民からの意見を集める、視察、内部・外部調査などが挙げられる。
資源発見	地域のシンボル	観光名所となっているお城、橋など。
	自然	身近に存在する植物など。
	人工物	地域に親しまれている建物など。
目標設定	構想計画	テーマなどが書かれているものなど。
	条例	イメージを言葉で表現したものなど。
課題設定	資金	事業を行うためのお金など。
	維持管理	完成した後どのように維持・管理していくかということ。
	周辺環境	整備が行われることによって周辺環境に与える影響のこと。
計画作成	基本計画	整備するものを選択し、配置を決めた計画など。
実施設計	整備計画	構造物、舗装、照明灯、ストリートファーニチャーおよび植栽等についての配置計画や運用管理計画を作成し、詳細設計を行うこと。
合意形成	事業開始	事業をするために話し合いを行う際に合意を得ること。
	目標	事業の目標を設定したものに対して合意すること。
	計画	計画に合意すること。
	設計	設計に合意すること。
	工事開始	工事に対して合意すること。
施工	工事	工事計画を作成し、工事を行うこと。



※整備の提供矢印については、矢印の太さにおいて事業費を表すものとし、太い程高額・細い程小額とする。

図－２　システム図

グシステムを参考にし、景観整備事業の中でその組織の位置付けと相互の関係がどのようになるのかをシステム図として表現した。システム図における構成要素としては、「行政」「市民」「混合組織」「イベント」「情報」「活動」がある。システム図では、「行政」を予算決定権の度合い、「市民」を対象物からの距離で分類し、「混合組織」を専門家・市民の含まれる割合によって布置し、事業費・活動を矢印で表現する。また、「混合組織」の参加人数、会議、イベントの開催数、継続機関を図形の大きさによって表現する。システム図の構成を図－２に示す。

５．景観整備事例調査

（1）　調査対象の選定

調査対象の選定方法としては、行政と住民の協議の場があり、その活動内容が記されているかどうか、また調査内容を精度よいものとするために、比較的近年の事例の抽出を試みた。（表－２）

尚、表中の期間については、プロセスの「問題発見」が行われた時点から、「施工」の開始迄とし、施工期間は含まないものとする。方式については、行政が先導し成されたものを「行政提供」とし、住民が要望し成されたものを「住民要望」とする。

（2）　プロセスの抽出

プロセスの各過程の内容（表－１）によって、項目の重みに配慮しながら、各事例のプロセスを表現したものを表－３に示す。

（3）　システム表現

図－２において示したシステム図を基に、各事例の組織及び活動を表現する。（図－３）

（4）　分析・考察

a）プロセス

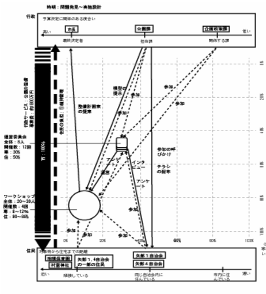
各事例を表現したものとプロセスモデルとの比較において多く言えることは、まず事例の中で「行政提供」方式とされるものでは、目標設定と課題設定の順が逆になっているということである。提示したモデルは、一般的にどのような主体であろうともこのように行うだろうと考えてつくられているが、「行政提供」方式では主体が、行政単独から住民参加開始の時期を境に変化する。事例においては読み取れていないが、目標設定の前に課題は設定しているはずであり、住民参加を取り入れることによって、再度課題が浮き彫りになり、目標設定と課題設定の順が逆になっているように表されていると考えられる事例３については、住民が主体となっている為、

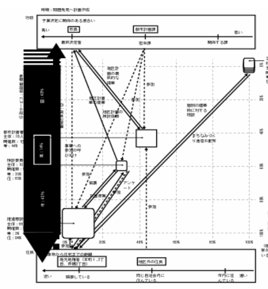
表－２　事例のリスト

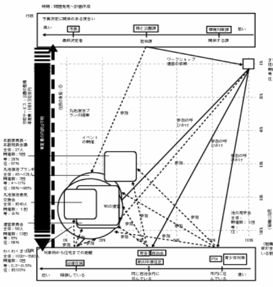
事例番号	名称	場所	(単位：月)	対象物	方式
1	村富公園整備事業	神奈川県相模原市	6	公園	行政提供
2	夢京橋キャッスルロード整備事業	滋賀県彦根市	35	道路	行政提供
3	新川丸池公園整備事業	東京都三鷹市	122	公園	住民要望
4	りんご並木整備事業	長野県飯田市	60	道路	行政提供
5	しょうにん通り整備事業	山梨県身延町	179	道路	行政提供
6	東丸1号線整備事業	三重県亀山市	97	道路	行政提供
7	玉宮通り整備事業	岐阜県岐阜市	28	道路	行政提供
8	北沢川緑道整備事業	東京都世田谷区	71	道路	行政提供

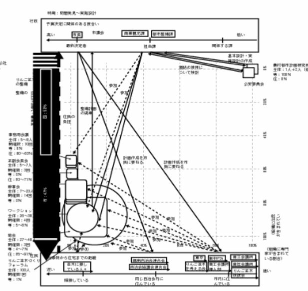
表－３　各事例のプロセス

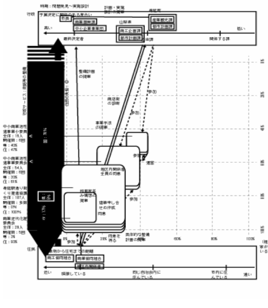
モデル	事例１	事例２	事例３	事例４	事例５	事例６	事例７	事例８
問題発見	問題発見	問題発見	問題発見	問題発見	問題発見	問題発見	問題発見	問題発見
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
資源発見	資源発見	資源発見	資源発見	資源発見	目標設定	目標設定	資源発見	資源発見
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
課題設定	目標設定	目標設定	課題設定	目標設定	課題設定	資源発見	目標設定	目標設定
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
目標設定	合意形成	課題設定	目標設定	課題設定	合意形成	課題設定	課題設定	課題設定
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
計画作成	計画作成	計画作成	計画作成	計画作成	資源発見	計画作成	合意形成	計画作成
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
実施設計	合意形成	課題設定	合意形成	合意形成	計画作成	課題設定	計画作成	課題設定
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
合意形成	実施設計	実施設計	実施設計	実施設計	実施設計	実施設計	施工	実施設計
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓		↓
施工	施工	合意形成	合意形成	施工	施工	合意形成		合意形成
		↓	↓			↓		↓
		施工	施工			施工		施工

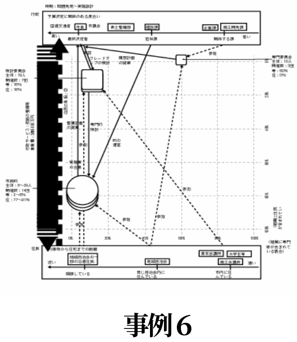

事例１

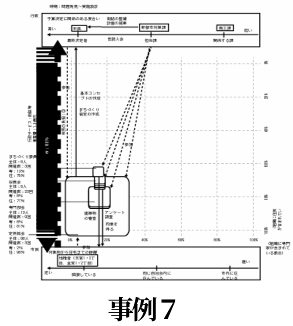

事例２

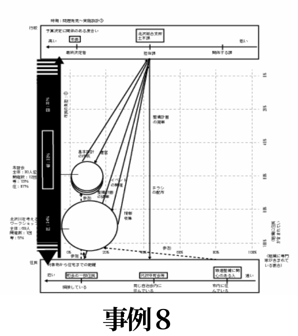

事例３


事例４


事例５


事例６


事例７


事例８

図－３　各事例のシステム図

モデル通りに課題設定、目標設定の順で行われていると考えられる。

次に、合意形成を行う過程が異なっていることが上げられる。これは、各事例が住民参加を行う理由として、計画・実施設計を参加によって行っていこうという所にある。モデルにおいては、行政（事業者）が行った設計に対しての合意を住民から得ると言うものだが、各事例においては、計画・設計の段階で住民が共に考えている、つまりそれぞれの目的を終了する時点で、合意形成を行っているため、モデルとは異なる位置に存在すると考えられる。

次に各事例の事業期間には、大きな差があるがこれについては、各事例の各過程を時間表現すると住民が参加していない期間において、時間を費やしているものが多いといえる。これは、行政側の立場として事業の決定に時間を浪費してしまい、それまで計画を行う事もできず、多大な時間が使われてしまっていると考えられる。

b）システム

システムモデルから読み取れることとして、事業費が顕著に高額になっている者は、事例２、事例５であるが、他の事例と比較して、明確な特徴は見受けられない。マーケティングの観点から考え、事業費が高額になると、参加に関係する市民はより広範囲に及ぶのではないかと考えたが、他の事例と比較してそのようには言えない様である。これは、実際の整備対象物が広範囲に及ぶ又は参加対象範囲の選定に依存しているからではないかと考える。また、イベントの参加人数・開催数も増えると考えたが、そのような特徴も見受けることは出来ない。これについても、事業費による尺度ではなく、整備対象に関係する市民、整備対象物において議論する事項の大小に依存されているからではないかと考える。

共通して言えることとして、混合組織や会議の位置が左下に存在する傾向がある。これは、各事例が、住民の参加を意識している為、住民が専門家よりも多い組織が当該位置に存在すると考えることができる。

c）プロセスとシステム

各事例のプロセス、システムを表現したものは表－４の様に分類することができる。

「住民要望広範囲型」（タイプ１）の場合は、住民側に与えられている意識も無い為か、プロセスモデルに近いのではないかと考えられる。「行政提供隣接型」（タイプ３）は、市民と対象物との距離が近いという事もあり、生活に密接した整備でもあるので、その場の状況にあわせたプロセスが取られている為、モデルとの不一致数も多いのではないか。「行政提供広範囲型」（タイプ２）「行政提供近隣型」（タイプ４）は、整備される対象が、直接生活に密接するようなものでもなく、行政が提供するプロセスに比較的そった形で行われたので、モデルとの不一致数もあまり多くないと言えるのではないだろうか。

表－４　事例の分類

タイプ	参加形式	市民と対象物の距	混合組織の割合	事例
1	住民要望	広範囲	市民	3
2	行政提供	広範囲	市民	4, 6
3	行政提供	隣接	市民	5, 7
4	行政提供	近隣	市民	1, 2, 8

8．結論

本研究においてわかったことは、個々の事業におけるプロセスは目標設定と課題設定の順、合意形成の過程が異なる傾向があるという特徴が把握された、しかし、プロセスモデルに近いプロセスを経ているものもあり、行政が提供する住民参加型のような主体が変化するものは試行錯誤によって進められている様子が見られた。

又、システムモデルにおいては住民参加に特徴的な点を把握することが出来たが、マーケティングにおいては変化の要因となる事業費における特徴は見られなかった。

今後の課題として、システムについては、事業費及び混合組織・イベントの変化において、マーケティングシステムにもたらす影響の調査を深めると共に、景観整備事例と比較し分析をする必要があることと、把握された特徴を基に具体的な手法を提案する必要がある。

参考文献

1）石井信行、吉森新平：企業のマーケティング論からみた景観整備事業の評価，土木計画学研究・論文集No.20，pp.441-447、2003.

2）（財）道路環境研究所　道路環境研究会
道路景観整備マニュアル（案），大成出版社，1989.